平成十五年度 町政施政方針

※※※※※※※※※※※※※※※

平成十五年三月十一日に行われた第一回小須戸町議会定例会で報告された町長の町政施政方針を全文報告いたします。

※※※※※※※※※※※※※※※

平成十五年小須戸町議会第一回定例会にあたり十五年度の施政方針を申し上げます。

まず初めに、去る二月二日の町長選挙に於きまして町民多数の皆様のご推輓とご信任により当選の栄に浴させて頂き、引き続き二月十二日より四期目の町政の重責を担わせていただいております。

今や国をはじめ、地方自治体の行財政運営は大きな変革期にあたり、まさに重大な時期に直面しておりますことは広く知られているところであります。かかる情況下において、難問課題が山積する中で、私は意を新たにし、過去十二年間培ってまいりました経験と行政運営を礎として住民福祉と地域振興を優先しながら、希望のある町政を進めてまいる所存であります。議員各位並びに町民皆様のさらなるご支援ご協力をお願い申し上げる次第であります。

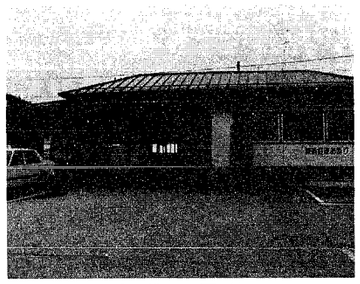
さて長びく、景気の低迷は、我が国のみでなく、先進諸国をはじめ世界各国にその兆候が顕著となっておりますことは文明社会の維持や文化国家の先き行きに想像し難い一抹の不安感を増巾するところであります。さらには国際的、または国家間に戦火に係る不穏なる兆が見え隠れする現況を考察する時、二十一世紀の平安を願うものとして、誠に遺憾であり、改めて世界の平和を声を大にして願うものであります。

一方、我が小須戸町では、市町村合併の気運の中で、将来的な社会構造の変遷が予測されますが、その中での小須戸町は「まごころの町」宣言を尊び、優しさと思いやりのある地域を構築し、誰もが安心して来たるべき町、誰もが楽しく住める町として、広く認知される町であることを願うものであります。

さて、町政につきまして、町行政について述べますが、当町ではこれまでの行政施策としては、住民福祉の充実と地域活性化の為に最大の努力を尽くし、堅実且確実に実行してまいったところであります。尚、十五年度の財政状況は地方交付税の連年の減額や、町税の減収が著しく、極度の厳しさであり、当初予算の編成には苦慮したところであります。しかし、「明るく活き活き生きとした、活力のある町、きめ細やかな福祉のある町」推進の基本理念を大切にしながら、予算の計上を行った次第であります。特に一例を挙げますと土木費に係る新規事業は抑制せざるを得ず、大巾な減額となりましたし、また各般に亘り予算の減額は余儀ない情況となった次第であります。

重点事業について

第四次総合計画で策定した事業のうち二大事業である矢代田駅周辺整備事業と、花とみどりのシンボルゾーン周辺整備事業については、現在、国、県等との協議が進展中であります。駅周辺整備事業については、本年中に都市計画決定が予定されており、ＪＲ東日本鉄道（株）とは協議が整ったところであります。この事業については都市計画決定後、実施計画を整え、国県の補助事業分と町の単独事業分として、十六年度より事業実施に着手する予定であります。


矢代田駅前

また、花とみどりのシンボルゾーン等周辺整備事業については、一期事業、二期事業としており、平成十五年度事業は一期分として経営構造対策事業の中の総合交流拠点施設整備であり、農業振興のための総合施設であります。

溯りますと、平成七年より新潟県が進めるビレッジビジョン事業に当町が指定を受け、農村地域活性化事業を展開してまいりました。

平成十三年度においては、地域農業システムづくり運動の重点地区として指定され、その活動内容を高く評価されて県知事表彰を受けました。

これらの永年にわたる農村地域活性化事業の集大成として平成十四年度で経営構造対策推進事業（ソフト事業）に取り組み、今般の経営構造対策事業（ハード事業）へと移行してまいったものであります。

現在、国の補助事業採択に向けて、国・県と協議中であります。

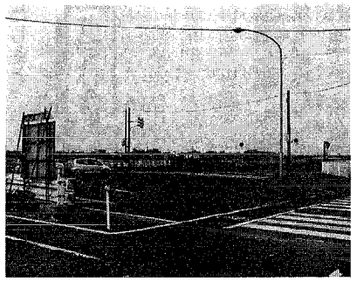
なお、当該事業は県下二か所、北陸農政局管内三か所で計画されておりますが、当町が先進的事例でもあり、県当局からも大きな期待をもって事業推進に多大なるご支援をいただいているところであります。

これは、関係各位の永年にわたる熱意と生産調整における大豆の団地化・組織化の成果やフラワーレディースなど農業女性の活躍の賜物であり、今後小須戸町の農業振興に大きな貢献をする施設となります。

二期事業について若干触れますと、日本一のボケ公園、ビオトープ（ホタル、メダカ等自然観察池等）、市民農園等がテーマとなっており、人々が集まる地域交流施設となる期待の大きな事業であります。

国、県の事業について

国道四〇三号バイパスについては平成十四年度の補正予算が確定し、十五年度当初予算も見込まれる状況にあり、県道、白根・安田線から町道鎌倉・横川一号線までの区間の用地買収は全て完了出来る予定であります。またこの区間の工事についても早期の着工を要望しているところであります。尚、小須戸町管内の総延長は二七五〇ｍであります。これからの事業費は膨大なものでありますが、早期開通を目指して一層の努力をしてまいります。山の手地区の雨水対策事業については、工事も順調に進捗しておりますが、早期の完了に向けた努力をしてまいります。


国道403号バイパス

次に、県関係の事業につきましては、県道、新潟・小須戸・三条線（堤防線）は順調に改良工事と物件補償も推進されておりまして、これからもこの事業が計画に沿って、早期完了できるように努めてまいります。

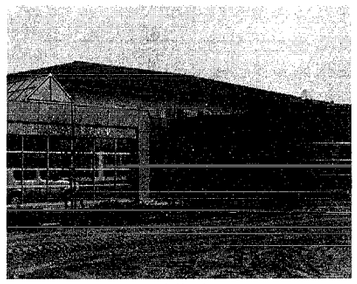
また矢代田小学校前から矢代田駅方向への歩道整備事業も関係地域の方々のご協力により整備も進んでおりますが、まだ未だ継続していく大事業でありますので、皆様の一層のご協力をお願いいたします。また駅前から南高校方向の歩道整備につきましても計画通りに整備が進みますよう、地域の皆様並びに地権者の皆様のご理解ご協力を賜りますようお願いいたします。

次に、国道四〇三号から松ヶ丘への出入口の、道路拡巾整備事業は関係地域の皆様のご協力を頂きまして十五年度中に完了したいと思っております。

また主要県道、白根・安田線のバイパス道路建設については、未だ事前協議の段階には至っておりませんが今後は矢代田駅周辺整備事業や国道四〇三号バイパスの整備の進捗状況の中で、計画を組み立ててまいりたいと思っております。

当面する町の課題について

永年の念願でありました、小須戸町特別養護老人ホーム（仮称）は、今般竣工いたしまして、名称も「こすど蒼丘の里」として四月一日に開所の運びとなりました。


こすど蒼丘の里

また矢代田小学校前から矢代田駅方向への歩道整備事業や国道四〇三号バイパスの整備の進捗状況の中で、計画を組み立ててまいりたいと思っております。

次に医療費について申し上げます。国民健康保険、老人保健会計については、年々増大しておるところであり、保険税の上昇を抑制しながらの予算編成には大変苦慮しているところであります。特に当町では昨年、ついに一人当りの老人医療費（七十歳以上）が県下一の高額を記録いたしました。このことは立地的な利便性もさることながら、町としてはケガや病気を少なくする為の予防医療、予防介護の施策をさらに進めてまいらなければならないと思っております。

農業につきましては、本年度の減反率が再に増加され米作経営は一段と苦しい状況に至っております。関係者におかれましては、生産意力の減退と農地の荒廃等が生じないようご努力をお願いいたしますと共に減反を利用した転作作物の展開を図られるようお願いする次第であります。またいよいよ事業に着手いたしますところの、経営構造対策推進事業に係る施設の有効利用に英知を絞られ、地域農業の振興に寄与されることを期待するものであります。

大豆畑

商工産業については、経済不況のつづく中で、全く厳しい状況下にあります。町の果たす役割には限界がありますが、各業